

# フラッシュ



JA青森

**第32回農産物品評会(10/22)**  
 JA青森女性部西地域支部は、第32回農産物品評会を青森市中央市民センターで開催し、約50人のお客様が来場した。品評会はコロナ禍で開催できず、4年ぶりの開催。今回出品の農産物は、全47点。金賞に輝いたのは、戸門地区在住の相馬せつさんが出品した、とても大きく、立派な白菜。表彰後、新鮮な農産物は、お客様に販売され大好評だった。



JAつがるにしきた

## 県産米「まっしぐら」社協へ贈呈(10/17)

JAつがるにしきたは、社会福祉法人五所川原市社会福祉協議会に県産米「まっしぐら」を寄贈した。山中満春組合長らが五所川原市地域福祉センターを訪れ、2キロ入り「まっしぐら」300袋を乗田孝一会長へ手渡した。組合員及び地域住民に対して地域に根ざす協同組合としての役割を積極的に果たし、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献することを目的に行った。



JAつがる弘前

## 農業後継者研修開催 リンゴの熟度調査実施(10/6)

JAつがる弘前では、地域農業を守るため、担い手育成を目的に第8期農業後継者研修の第7回目を開いた。同研修は営農や農業経営についての講習会、視察研修などを2年間で20回程度開催する。今回は、指導課生産係と指導係の職員が講師を務め、同JAが推奨している園芸作物について学んだ後、リンゴの熟度調査実習を行った。



JAごしょつがる

**晩生リンゴ規格確認 葉取らずにも期待(10/23、24)**  
 JAごしょつがるりんご野菜課は、管内14カ所で行われる「ふじ」を中心としたリンゴ晩生種の規格基準説明会を開いた。五所川原市七和地区の説明会には生産者約40人が参加した。JAは2023年産から、新たに無袋「ふじ」の葉取らずリンゴの取扱いを開始する。説明会では、入庫する際の注意点や熟度、着色などの選別基準を説明した。



JA相馬村

## 農林水産省 若手職場訪問(10/12)

農林水産省の入省2~4年目の若手職員2人がJA相馬村本所フルーツステーションを訪れ、リンゴ作業などを通して果樹栽培や地域について理解を深めた。2万箱のコンテナが収容できるリンゴ冷蔵庫やバーコード付きフリートレイでの選果、箱詰めが終わったリンゴが等級ごとに整列されたレーンなどを見学した。

JA津軽みらい



力を合わせてサツマイモ収穫 (10/17)

平川市立金田小学校の2年生と4年生83人は、同市南田中の「わんぱく農園」で春に植え付けしたサツマイモの収穫を行った。

農作業体験を通じて自然や命の大切さを知り、食べ物への感謝など学んでもらうため、毎年実施。作業はJA職員ら6人が手伝い収穫し、大きく育ったサツマイモに児童からは驚きと喜びの声が上がった。

JAゆうき青森



葉つきこかぶ収穫作業を通じて食育活動 (10/13)

野辺地町立若葉小学校と野辺地小学校の3学年児童は、同町特産物である葉つきこかぶの収穫作業を野辺地地区青年部と行った。

児童らは、播種から青年部指導のもと、愛情いっぱい管理し、収穫を待ち望んできた。収穫した葉つきこかぶは市場へ出荷する時と同様に外葉をとり、一玉ずつ丁寧に洗浄。各校は地元特産品の栽培や試食を通じて食育活動を行った。

JA十和田おいらせ



ナガイモ最終坪掘り調査 昨年の巻き返し誓う (10/13)

JA十和田おいらせ野菜振興会ながいも専門部会は、大深内支店でナガイモの最終坪掘り調査を行った。

作柄は細長い傾向で、10㍏収量は前年比115%の3528キロ、A・B品率は62%。JAは適期収穫により収量と所得の確保を呼び掛け、豪雨の影響が深刻だった2022年産の巻き返しを図る。管内の収穫は11月中旬から始まる予定。

プリザーブドフラワー教室と  
フラワーアレンジ教室

プリザーブドフラワー教室を開催 (10/6、10)

JAおいらせ女性部六戸支部は、プリザーブドフラワー教室(6日)、フラワーアレンジ教室(10日)を開催した。両日合わせて29人が参加し、共にハロウィンをテーマとして作品を仕上げた。プリザーブドフラワーとは生花を特殊な液体につけて長期間の保存を可能にしたもので、グルーガンに苦戦しながら、バランスを考え台座に固定して仕上げた。



JAおいらせ

JA八戸



丸いも作柄調査 (10/11)

JA八戸振興野菜専門部は、同JA五戸営農センターで丸いも作柄調査を県民局普及振興室の職員、JAの指導員で実施した。

品質については高温乾燥の影響から形状が悪い結果となったが、重量については平年並みとなった。有利販売につなげる目的で、管内10カ所のほ場から無作為にサンプルを採取し、重量・等階級を中心に計測した。

## 組織討議へ向けた説明会

JA青森中央会は10月6日、青森市の県農協会館で食料・農業・農村基本方針改正にかかる重要要請に対する組織討議の説明会を開いた。オンラインを併用し、青森県内のJA代表ら約80人が参加。討議に向けて、食料・農業・農村基本法関連施策などの具体化にかかるJAグループの重点要請の素案について説明を受けた。

同中央会の雪田徹会長は「政府・与党による食料・農業・農村基本法の見直しが大詰めを迎える。その中で今回、現場の意見・要望を集約し、JAグループとしての意志を反映した要請を行うために開いた。積極的な組織討議をお願いしたい」と話した。

説明会ではJA全中農政部の生部誠治部長を講師に、基本法見直しに向けた政府・与党の動向や、今後のJAグループとしての方向性などについて説明を受けた。

今後、各JAで組織討議を行い、JAグループ青森として集約した意見・要望を国に届ける。



▲生部部長の説明を聞く参加者ら

## 国消国産 PRイベントを実施 JAグループ青森が連携

JA青森中央会は10月16日、イトーヨーカドー青森店で、国消国産PRイベント「みんなで知ろう！国消国産」を実施した。

食料安全保障の強化と再生産に配慮した適正な価格形成の実現に向け広く県民に理解を促すことが目的。

同中央会の大場勉副会長の他、県JA女性組織協議会・県農協青年部協議会、JAアオレンの代表者、またミス・クリーンライスあもりなどが参加し、会場を盛り上げた。

イベントでは来場者に対し、国消国産PR資材とともに県産農産物（青天の霹靂パックごはん、リンゴジュース）を配付した。

同中央会の大場副会長は「食料の多くを外国に



▲PR資材を配布する関係者

依存している日本では、私たちの食を取り巻くリスクは年々高まっている。国消国産を理解いただき、食料を生産する農業・農村などを支えたいと思っていただける方が、一人でも多く増えることを願っている」とあいさつした。

来場者は「国産の農畜産物をたくさん食べて農家さんを応援したいと思う」と笑顔で受け取っていた。

## 国消国産PR JR青森駅とJR弘前駅に電子看板

JA青森中央会は10月1日から31日まで、JR青森駅とJR弘前駅のデジタルサイネージ（電子看板）で国消国産PR画像を掲示した。両駅は青森県内でも利用者が多く若年層も多い。アイドルグループの乃木坂46が登場し、駅を利用する若年層をターゲットに食や農業の大切さや国消国産の考え方をアピールし、1回掲示につき15秒で、両駅で合計1万8150回放映した。



▲JR青森駅での電子看板

## 行事 (11/10~12/10)

- |        |   |
|--------|---|
| 11月    |   |
| 10日    | 上半期監事監査（9日～）（県農協会館）                       |
| 11日    | 認証中級試験（県農協会館）                             |
| 13日    | 北海道・東北ブロックJA代表者要請集会 JAグループ基本農政確立全国大会（東京都） |
| 14～16日 | 県JA協議会 農業視察研修（岡山県、兵庫県）                    |
| 16日    | ファシリテーションスキル養成研修会（県農協会館）                  |
| 25日    | 認証上級試験（県農協会館）                             |
| 28日    | 営農指導員資格認証に係る指定研修会<栽培>（県農協会館）              |
| 12月    |   |
| 1日     | 新任非常勤役員研修会（県農協会館）                         |
| 5日     | 県家の光大会（県農協会館）                             |
| 6日     | 総務・管理担当部課長会議（ホテル青森）                       |
| 6～7日   | 中堅職員研修会2（県農協会館）                           |
| 7日     | 定例理事会・役員協議会（県農協会館）                        |
| 8日     | 県JA青年大会（県農協会館）                            |



実りの秋! 「国産」を食べてみませんか?



# 「国産」を食べると、いいこと、いっぱい。 あなたは、いくつ思い浮かびますか?

みなさんは、どういった理由で「国産」を選んでいますか。ある調査\*では、回答者の約8割が「安全・安心だから」、約3割が「生産者を応援したいから」といった理由で「国産」を選んでいます。「国産」を食べることで、たくさんのいいことがあります。**農業を応援し、未来の子どもたちに「食」をつなぐため、「国産」をもっと食べて、もっといいこと、広げていきませんか。**

\*日本政策金融公庫(令和5年1月)食料品を購入するときに国産かどうかを「気にかける」理由(複数回答2つまで)



## 家族に、いいこと

- ・おいしくて新鮮で安全・安心な食事を実現
- ・未来の子どもたちに「食」をつなぐ

食料自給率約4割

## 日本に、いいこと

- ・食料自給率アップ
- ・田んぼのダム機能などで防災
- ・和食文化や伝統芸能を継承

## 「国産」を食べると、いいこと、いっぱい。

## 世界に、いいこと

- ・輸入によるCO2排出が減る
- ・SDGsに貢献
- ・途上国の食料を奪わない

## 農業に、いいこと

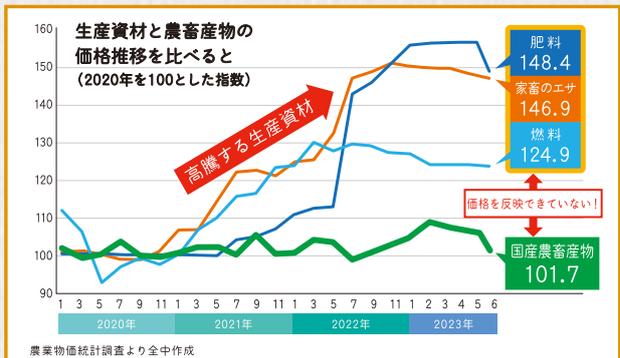
- ・日本の生産者を食べて応援
- ・地域の活性化に貢献
- ・多様な生き物を育む



JAグループサポーター 林修

農業に必要な資材の価格が上がっているのに「国産」農畜産物の価格は、あまり変わっていない!

いいことがいっぱいの「国産」ですが、農業の現場では、肥料、家畜のエサ、燃料や流通コストが上り続けています。一方、それらの増えた分が、国産農畜産物の価格に適正に反映できていません。このままだと、日本で農業を続けていくことができなくなってしまうかもしれません。今、私たちにできることは、「国産」を食べて応援することではないでしょうか。



## 「国産」を食べて応援キャンペーン実施中

食べて応援 その1

JA直売所に3回来店してスタンプをGet!



47都道府県とっておきの  
3,000円相当の農畜産物・加工品が  
合計14,100名様に当たります!

期間 2023年10月1日~11月30日

<https://www.asahi.com/ads/nogizaka46ja/kokusyokokusanpc23/>  
※9月19日からご覧いただけます。

食べて応援 その2

おいしい秋を、お得に。



今がチャンス! お客様の送料負担なし  
送料をJAグループが負担します!

JA全農の産地直送通販サイト JAタウン

期間 2023年10月1日~11月末日

※規定数に達した場合、早く終了することがあります。  
<https://www.ja-town.com/shop/e/ekokusho/>  
※10月1日からご覧いただけます。



耕そう、大地と地域の未来。 JAグループ

## 「JA住宅ローン 食と生活応援キャンペーン」実施中！

JAバンク青森では、2023年10月2日（月）から「JA住宅ローン 食と生活応援キャンペーン」を実施している。期間は2024年3月29日（金）まで。

本キャンペーンは、期間中にJA住宅ローンをご成約いただいた方全員に、県産農畜産物または日用品や防災グッズなどの生活応援品をプレゼントするもので、プレゼント商品14品目の中から好きな商品を選ぶことができる。

新築や中古物件購入のための借入のほか、他金融機関からの借り換えも対象になる。

キャンペーンの詳細や各JAが取扱う住宅ローン商品に関するお問合せは、最寄りのJA窓口まで。



## 信用事業マネジメント実務強化研修を開催

JAバンク青森は10月24日～25日、県農協会館で㈱農林中金アカデミー山根孝一氏を講師に「信用事業マネジメント実務強化研修」を開催した。

本研修は、信用事業管理者に求められる実務面の留意事項やコンピテンシー等を理解し、「業務の管理」や「人の管理」において必要な行動を実践できるようになることを目的に開催したもので、県内JAから信用事業管理者10名が受講した。

コンピテンシーとは、「高い業績を上げた人に共通して見られる行動特性」のことで、高い業績

を上げている職員の専門技術やノウハウ、基礎能力等を細かく分析し、何がその人を「仕事のできる職員」にしているのかを明らかにしたものの。コンピテンシーを行動基準や評価基準として活用することで、自身の行動の質を上げていくことができる。

受講者は、日常業務における各種事例を参考に、営業店管理者としての来店客への適切な事務対応に加え、トラブル・犯罪等を未然に防止する行動、顧客への説明の仕方などを学んだほか、必要なビジネススキルと行動の質を上げるためのコンピテンシーについて、対人、思考、資質の3つの側面からプラスと評価される行動事例などを学んだ。

また、部下の管理や指導・育成の仕方を習得するために、さまざまなタイプの部下を想定したロールプレイングを行い、効果的な面談のやり方やポイントなどを確認するとともに、受講者それぞれが「マネジメント強化に向けた行動計画書」を作成し今後の実践に役立てていくこととした。



▲ロールプレイングで面談のポイントを確認する受講者

## 行事 (11/10～12/10)

### 農林中央金庫

#### 11月

- 14日 貸出管理回収実務研修（ウェブ会議）
- 15日 貯金・為替初任者研修（ウェブ会議）
- 16日 融資初任者研修（ウェブ会議）
- 20日 JAバンク青森運営協議会専門委員会（県農協会館）
- 28日 貯金・為替初任者研修（ウェブ会議）
- 29日 融資初任者研修（ウェブ会議）

#### 12月

- 7日 青森県JA信用担当部課長会議（ウェブ会議）

## イトーヨーカドー青森店情報交換会

青森県は㈱イトーヨーカ堂とのタイアップ企画で、9月6～10日の5日間、「青森県フェア」を開いた。

9日には、青森市のイトーヨーカドー青森店で青森県との情報交換会が開かれた。宮下宗一郎青森県知事をはじめとし、㈱イトーヨーカ堂、産地代表者らが出席。今年からデビューする県産米の新品種「はれわたり」やホタテなど、県産品の紹介や今年度の農畜水産物の生育状況を確認したうえで、意見交換・情報交換を行った。

JA全農あおもりの桑田徳文県本部長からは「本年は猛暑の影響で米、りんご、野菜の品質、収量が心配される。最後まで良質で美味しい県産農畜産物をお届けするとともに、生産コスト上昇分を販売価格に転嫁出来るような価格形成に努め、消費者の理解醸成と消費宣伝に尽力する」と述べた。

同日には店舗内で県産品の購入者に対し「はれわたり」のパックごはんを配布し地産地消を呼びかけた。



▲今年度の生育状況を報告する桑田県本部長

## JA全農あおもり食べて応援!! まるごと青森ナイター

JA全農あおもりは9月21日、仙台市の楽天モバイルパーク宮城で「JA全農あおもり食べて応援!! まるごと青森ナイター」を開いた。

パーク内には協賛ブースを設置し、先着1000名に青森県産品が当たる抽選会を実施した。賞品は、青森米3銘柄のパックごはんや旬のりんご「つがる・きおう」、にんにく、あおもり和牛ステーキ。

ミス・クリーンライスあおもりの川崎美夏さん、ミスりんごの七海香穂さん、青森いきいきやさしいレディの算用子芽衣さん、花田瑤緒さんらが来場者に賞品を配布した。またブース内にはりんごジュースの試飲コーナーも設置。

両チームへの商品贈呈式では、贈呈内容を記載したパネルを進呈。10月に青森米「青天の霹靂」やりんご、にんにくなど1年分を贈った。



▲商品贈呈式の記念撮影

## はれわたり販売スタート

JA全農あおもりは9月26日、今年から全国デビューする「はれわたり」の精米を行い、県内各スーパー・量販店などへの納品を始めた。全農あおもりが取り扱う精米は9月28日から県内で販売開始した。精米は青森市の全農あおもりパールライスセンターで行われ、初日は50トンの精米を行った。令和5年産のはれわたりの精米取り扱い量は1500トン进行している。

「はれわたり」は、(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所が交配開始から13年の歳月をかけて開発した新品種。ひとめぼれやコシヒカリをルーツに持つ。県内すべての地域で栽培が可能であるほか、耐冷性やいもち病抵抗性が強い栽培特性があり、生産農家の期待が高い品種。

日本穀物検定協会が実施した令和4年産米の「米の食味ランキング」では、デビュー前の参考品種ながら最高評価の「特A」の評価を獲得している。炊き上がりの粒立ちが良く、表面は白く光り、ふっくらとした優しい食感とほどよい甘み特徴。

全農あおもりパールライス販売課の村田武志課長は「つがるロマンの栽培が今年産で終了となり、後継銘柄として大きな期待を寄せられている。こ

れまでの青森米にない食味となっているので、是非試してほしい」と述べた。

全農あおもりでは青森市の直売所アグリショップ青森および産地直送通販サイト「JAタウン」で販売中だ。



▲新米の「はれわたり」を持つ職員

### 「青天の霹靂」をテレビ番組でPR

JA全農が提供するTOKYO MXのテレビ番組「おいしい日本をいただきます！」が、10月21日午前10時から11時まで放送された。産地直送通販サイト「JAタウン」の中から、全国各地のおすすめ商品を紹介するもの。MCは、同サイト公式アンバサダーの根本凧さん。

9月27日、番組の収録が行われ、JA全農あもりからは、青森米「青天の霹靂」を紹介。根本さんから「炊きたてはもちろん、冷めても一粒一粒が主張し、あっさりした味わい」「食味ランキングで8年連続特A評価を取得している」などと説明があった。全農あもりの担当者からは「青天の霹靂は、熟練した生産者にしか作れない」「冷めてもおいしいお米」などと紹介した。青天の霹靂に関するクイズも出題され、視聴者が楽しめる内容になっている。

現在は、TOKYO MX公式YouTubeで1年間視聴が可能となっている。



▲番組の収録にあたる担当者

### さつまいもの生産強化

JA全農あもりは、JA津軽みらいとともにさつまいもの生産強化と販路確立を図る。

近年のさつまいも海外需要に応えるため、JA津軽みらいは新たなさつまいもの産地化に向けて、令和4年に「ハロウィンスイート」等を作付けし、今年はさらに作付面積を拡大した。

10月4日、JA津軽みらいとJA全農あもりは実証ほ場でさつまいも掘りを行い、約700キロを収穫した。同畑内でも生育にはばらつきが見られ、定植方法や栽培環境等の影響が懸念された。

「品質を安定させるため、生産面での工夫や出荷時の規格を全国と統一するなど、JA内で検討を重ねて積極的に取り組んでいく。また、鹿児島など主産地と交流してキュアリング技術や保管方法を学び、高冷地の振興作物として定着化を図っていきたい」と同JA工藤俊博組合長は語る。

今後、JA施設においてキュアリング処理による品質確保の実証試験を行い、全農あもりと連携しながら海外での販路開拓を進めることとしている。



▲さつまいもを掘るJA津軽みらい職員

### あおもり和牛の夕べ

あおもり牛販売促進協議会は(株)八戸パークホテルとコラボし、「あおもり和牛」を使用したディナーイベント「あおもり和牛の夕べ」を開いた。

あおもり和牛は上質な赤身に甘みのあるきめ細やかな脂が特徴の牛肉。このイベントはあおもり和牛の認知度向上・消費拡大を目的として企画された。

イベントは八戸市の八戸パークホテルで行われ、サーロインステーキや、炙り寿司、もも肉のマリネなどあおもり和牛を使用した料理5品とデザートがふるまわれ、参加者はあおもり和牛の美味しさを堪能した。



▲料理を楽しむ参加者たち

### 『青天の霹靂』新米発売記念イベント

J A全農あおもりは10月7日、令和5年産米「青天の霹靂」を全国一斉に発売した。この日に合わせて、青森市のイトーヨーカドー青森店で『『青天の霹靂』新米発売記念イベント』を開いた。

イベントでは新米各種のほか、青天の霹靂を使用した弁当・おにぎりを販売。対象の青森米購入者先着400名にはカットながいもをプレゼントした。

また、会場内では新米おかず投票を実施した。新米と一緒に食べたいおかずを投票した来場者の中から、抽選で9名に青天の霹靂2kgをプレゼント予定だ。

さらに、会場ではお米大使によるダンスステー



▲「青天の霹靂」を買い求める来店客

ジや写真撮影、ミス・クリーンライスあおもりによるPRも行われ、会場を盛りあげた。

新米「青天の霹靂」は、全農あおもりの直売店「アグリショップ青森店」（電話017-735-5318）や、J A全農が運営する産地直送通販サイト・J Aタウン「J A全農あおもり」ショップで販売中だ。

### 青森米販売対策会議

J A全農あおもりは10月10日、青森市で青森米販売対策会議を開き、県外の米穀卸売業者や県内J A、青森県から代表者らが出席した。

令和5年産米の取組みや作柄状況の共有、新品種「はれわたり」の販売方針など協議した。

全農あおもりは集荷数量について、飼料用米からの転換などにより、前年産米を約1万トン上回る9万900トン（前年比114%）と見込んだ。

「はれわたり」の販売については、県内量販店を中心に「つがるロマン」から切り替えの促進、定着化を図り、販売計画数量（本会取扱分）を3840トンとした。令和6年産以降については「つがるロマン」からの全面切替えを基本に、販売動向および需要量を精査し、作付誘導を図る。

㈱むらせの村瀬慶太郎社長は「5年産米は今までにない猛暑の影響で厳しい状況にある。一大生産地である青森県の生産者に愛情をもって作ってもらえるよう、中長期的な協議をしたい。また、卸売業者としてどのように販売していくか意見を出し合い、検討する良い機会にしたい」と述べた。



▲卸売業者を代表し挨拶をする村瀬社長

### 行事 (11/10~12/10)

12月

- 7日 運営委員会（県農協会館）
- 8日 青森県J A - S S 運営協議会役員会（県農協会館）

## 令和5年度JA共済青森県小・中学生 第67回書道コンクール・第46回交通安全 ポスターコンクール審査会の開催

JA共済連青森は、令和5年9月23日（土）青森県農協会館において、令和5年度JA共済青森県小・中学生書道・交通安全ポスターコンクール審査会を開催した。

両コンクールは、共済事業の理念である相互扶助と思いやりの精神を、次世代を担う小・中学生へ伝えていくとともに、児童・生徒の書写教育に貢献することを目的に「書道コンクール」を、また、児童・生徒の図画工作・美術教育の高揚を図り交通安全思想を幅広く社会に訴えることを目的に「交通安全ポスターコンクール」を開催しており、地域貢献活動（文化支援活動）の一つとなっている。

書道コンクールは昭和32年度にスタートし今年度で67回、交通安全ポスターコンクールは昭和53年からスタートし今年度で46回となり、質、応募点数ともに県内屈指のコンクールとして高く評価されており、今年度の応募作品は、書道が338校から、7,326点、交通安全ポスターは111校から、471点の作品の応募をいただいた。

当日は、書道・交通安全ポスターの審査員10名が会場に集まり、審査する際の基本方針や選出点数などを確認し、書道は鎌田雨溪審査委員長、交通安全ポスターは宮本益衛審査委員長を中心に厳選な審査が行われた。

各審査委員の厳選なる審査の結果、書道半紙・条幅の部および交通安全ポスターの部あわせて、最優秀賞27点、特選27点、準特選27点、奨励賞80点が選出された。各部門で最優秀賞を受賞した作品は県代表として全国コンクールへ出展される。



▲書道コンクールの審査を行う様子



▲交通安全ポスターコンクールの審査を行う様子

## 令和5年度 JA共済青森県小・中学生 第67回書道コンクール・第46回交通安全ポスターコンクール展示会開催のお知らせ



次の日程で開催いたしますので、ぜひご来場ください。  
なお、作品の展示は、最優秀賞・特選・準特選受賞作品とし、奨励賞の展示はございませんのでご注意ください。



© 2006 JA-KYOSAI

開催日	時間	場所
11/11（土）、12（日）	10：00～16：00	【青森市】 青森産業会館（ロビー）
11/18（土）、19（日）	10：00～17：00	【弘前市】 さくら野百貨店弘前店（4階エスカレーター前ホール）
11/25（土）、26（日）	10：00～17：00	【おいらせ町】 イオンモール下田（1階パセリー菜横広場）

## J A 共済きずなの青い森プロジェクトの開催

J A 共済連青森は、10月3日に平内町で「J A 共済きずなの青い森プロジェクト」を開催した。J A 青森女性部や平内町役場職員などを対象に総勢37人が参加した。

森林プログラムでは森林組合あおもりのご協力のもと、弁慶内地区にある「J A 共済きずなの青い森」で除間伐や伐採の作業を見学した。その後、平内町消防署のご協力を得て、救助活動等を見学することで、救助活動の大変さを学んだ。午後の食育プログラムでは、県生協連等職員による食品ロス（フードロス）や食育に困んだクイズにより、現代の「食」に関する問題・課題について学ぶとともに、木工クラフトプログラムでは木材を利用した工作に挑戦した。

参加者は「伐採作業の見学ができてよかった」「また来年も参加したい」と、楽しみながら参加している様子が伺えた。



▲森林プログラムの様子



▲消防署の見学（説明を受ける参加者）



▲県生協連等職員による食育クイズの様子



▲木工クラフトに挑戦する参加者

## 令和5年度スマイルサポーター交流集会の開催

J A 共済連青森は、10月16日と20日に県農協会館で「令和5年度スマイルサポーター交流集会」を開催した。

県内のスマイルサポーターの交流による、事例の共有や日常課題への解決策の検討を通じた窓口対応力の強化、利用者満足度向上を目的としている。

7名から8名で編成したグループ討議では、4つのテーマ①グレードアップの取組み、②新規獲得にかかる取組み、③L Aとの情報連携・情報共有の取組み、④長期共済にかかる窓口推進の取組みについて、熱心に意見交換を行い交流の様子が伺えた。



▲開会挨拶の様子



▲グループ討議の様子

### 行事（11/10～12/10）

#### 11月

11～12日 書道・交通安全ポスターコンクール入賞作品展示会（青森市産業会館）

16日 建物共済J A 審査員有資格者研修会【2回目】（オンライン）

18～19日 書道・交通安全ポスターコンクール入賞作品展示会（さくら野弘前）

21日 J A 自動車契約担当審査員有資格者研修会【2回目】（オンライン）

25～26日 書道・交通安全ポスターコンクール入賞作品展示会（イオンモール下田）

30日 共済担当部長会議（県農協会館）

#### 12月

5日 共済事業担当常勤理事会議（県農協会館）

7日 運営委員会（県農協会館）

「令和5年産 水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量」(青森)

◎10a 当たり予想収量は614kgの見込み

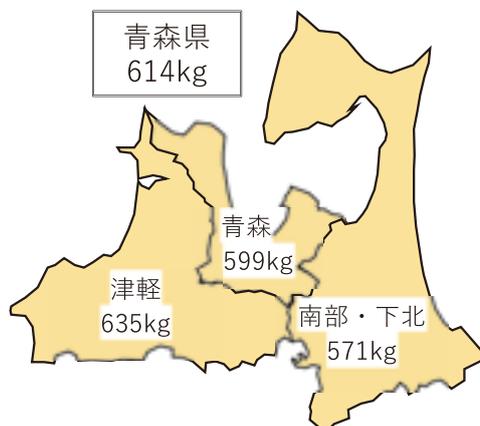
- 1 令和5年産水稻の作付面積(青刈り面積を含む。)は4万9,300haで、前年産に比べ200haの減少が見込まれます。うち主食用作付面積は3万3,800haで、前年産に比べ100haの減少が見込まれます。
- 2 9月25日現在における水稻の10a 当たり予想収量は、全もみ数(穂数×1穂当たりもみ数)は平年に比べやや少なかったものの、登熟(もみの肥大、充実)は、順調に推移していることから、前年産より20kg多い614kgが見込まれます。なお、農家等の皆さんが使用しているふるい目幅(1.90mm)ベースの作況指数は102の「やや良」が見込まれます。
- 3 主食用作付面積に10a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量(主食用)は20万7,500tで、前年産に比べ6,100tの増加が見込まれます。

表 令和5年産水稻の作付面積、10a 当たり予想収量及び予想収穫量(9月25日現在)

区分	作付面積 (青刈り面積含む。) ①	10a 当たり 予想収量 ②	農家等が使用している ふるい目幅で選別			主食用作付 面積 ⑥	予想収穫量 (主食用) ⑦=②×⑥
			10a 当たり 予想収量 ③	10a 当たり 平年収量 ④	作況指数 ⑤=③/④		
	ha	kg	kg	kg		ha	t
青森	49,300	614	587	574	102	33,800	207,500
青森	5,690	599	572	559	102	...	...
津軽	29,300	635	607	594	102	...	...
南部・下北	14,300	571	547	534	102	...	...

- 注：1 ①作付面積(青刈り面積含む。)とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるものの(WCS用稲、わら専用稲等を含む。)ほか、飼料用米等の面積を含む水稻を作付けた全ての面積である。
- 2 ②10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 3 ③10a 当たり予想収量、④10a 当たり平年収量及び⑤作況指数は、過去5か年間(平成27年産～令元年産)に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅(青森県は1.90mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
- 4 ⑥主食用作付面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、新規需要米(飼料用米を含む。)、備蓄米、加工用米等の作付面積(9月15日時点)を除いた面積である。
- 5 作柄表示地帯別の⑥主食用作付面積及び⑦予想収穫量(主食用)は、地帯別の新規需要米(飼料用米を含む。)、備蓄米、加工用米等の作付面積(9月15日時点)を把握していないことから「…」で示した。

図 作柄表示地帯別10a 当たり  
予想収量(9月25日現在)  
(1.70mmのふるい目幅ベース)



※10月25日現在の水稻の予想収穫量については、11月上旬に公表を予定しています。

# 実践 農業者支援

## 令和5年度援農ボランティア ～県内JA・企業と連携～

### 1. 援農ボランティアの目的

平成30年度より、県内JA・県内企業等の協力を得て農家組合員の農作業をお手伝いする「援農ボランティア」を実施しており、今年度で6年目となる。

本取組みの目的は、普段、農業と触れ合う機会の少ない県内企業従業員に対し、実際の農作業体験を通じて、青森県農業への理解と地産地消の意識醸成や喫緊の課題である農家組合員の労働力不足の一助とすることを目的に実施している。

なお、援農ボランティア参加者は、個人の自由意志で行うものとし、ボランティア活動の原則である「自主性」、「社会性」、「無償性」、「創造性」に基づいて活動することとしている。

### 2. 令和5年度の実施内容

令和5年度は、9月1日～11月4日にかけて、県内10JAで実施する予定となっており、10月末時点で6JAにて実施している。受入農家は延べ約35名、参加人数は県内企業2社・県内団体3団体・JAグループ青森四連合わせて延べ約130名となる見込みである。

### 3. 援農ボランティア実施による取組効果

#### 【受入農家への効果】

- ①一時的ではあるものの、労働力を確保することができた。
- ②今後、外部から労働力を確保する際に農作業未経験者に対して作業内容をレクチャーした経験などを活用できる。
- ③県産農産物をアピールする機会となった。

#### 【参加者への効果】

- ①農作業、農家組合員、農村への理解を深める機会となった。
- ②農家組合員との交流の場が持てた。
- ③普段の仕事とは全く違う農作業をすることによってリフレッシュできた。

#### 【JAへの効果】

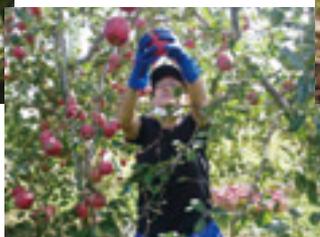
- ①外部から労働力を確保するための条件等を把握できた。

### 4. まとめ

「援農ボランティア」というスポット的な短期労働力を今後どのように中長期の労働力として確保するか、農家組合員の満足度を高める内容にしていくかが課題である。

農業の労働力を確保するためには、「援農ボランティア」の多様な労働力もますます重要になってくると思われる。今後もこの活動が広がるよう県内企業にアプローチする必要がある。

(中央会 農業対策部)



# 経営の窓口

## マネー・ローンダリング・テロ資金供与対策にかかる 研修受講の取組みについて

### 1. はじめに

金融庁は、JAを含む全金融機関に対し、令和6年3月末までを期限としてマネー・ローンダリング（以下、マネロン）ガイドラインに基づく態勢整備を完了させることを要請している。これにより、JAグループでは、各JAに対し、「リスク管理部署への専門性を有する人材配置」「マネロン対策に関わる全役職員の研修受講」を求め、マネロン対策の態勢整備にかかる取組みを進めているところである。

### 2. マネロン・テロ資金供与対策にかかる研修の実施について

#### (1) 経緯

JA全中による「会員の行動規範にかかる取組指標」および農林中央金庫による「体制整備基準」のマネロン対策にかかる態勢整備に関する点検項目として、「リスク管理部署への専門性を有する人材配置」「マネロン対策に関わる全役職員の研修受講」が追加となる。

このため、マネロン・テロ資金供与対策にかかる研修資料および習熟度確認テストを用いて、役員向けおよびリスク管理部署・内部監査担当部署向けの研修の受講が必要となる。

#### (2) 研修の持ち方

- ① 本会が提供する資料を活用のうえ、令和6年3月末までに「役員向け研修」及び「リスク管理部署担当部署・内部監査担当部署向けの研修」を受講する。
- ② 研修形態は、提供する研修動画（URL）を研修参加者へ送付等のうえ個別受講を案内することでも差し支えない。

#### 【区分別の受講対象者】

	全役員	リスク管理部署	内部監査部署	一般部店 マネロン担当者
中央会提供の研修動画	必須	必須	必須	任意
農林中金提供の研修動画	任意	任意	任意	必須
農林中金の集合研修	任意	任意	任意	任意
共済連の集合研修	任意	任意	任意	必須

- ③ ②のとおり研修受講がなされている場合には、来年度実施の体制整備モニタリング判定（リスク管理部署の専門人材関連）において、「中央会の研修を受講」しているものとして判断される。
- ④ JAグループのマネロン対応にかかる研修の質の確保の観点から、今回の提供資料とは別の資料等を用いて既に「役員向け研修」および「リスク管理部署・内部監査部署向けの研修」を行っているような場合においても、今回提供資料を用いた研修を追加的に行うこととする。

(3) 受講者の管理について  
研修受講者管理体制の構築の観点から、対象の役職員の受講状況を管理する。

(4) 研修資料について

① 映像資料の概要等は次のとおり。

資料名	対象	時間	主な取扱内容
経営層の関与・理解	役員	25分	・役員主導でマネロン・テロ資金供与対策を行う必要性 ・役員がマネロン・テロ資金供与対策で把握すべき事項 ・役員が主導する態勢整備の内容
リスク管理部署・内部監査担当部署向け研修	リスク管理部署／内部監査担当部署	30分	・マネロン・テロ資金供与対策の全体像 ・マネロン・テロ資金供与対策において求められる体制整備 ・マネロン・テロ資金供与対策において求められるリスク管理

② 上記の映像資料の配信等については、別途文書にて通知しているので参照願いたい。

### 3. 習熟度確認テストの実施について

(1) 経緯

- ① 金融庁ガイドラインでは「研修等の効果について、研修等内容の遵守状況の検証や役職員等に対するフォローアップ等の方法により確認し、新たに生じるリスク等も加味しながら、必要に応じて研修等の受講者・回数・受講状況・内容等を見直すこと」とされている。このことを踏まえ、「マネー・ローンダリング等への対応に関する規則（例）」では、「職員への研修実施後、通常業務や面談等を通じて、対象者の理解度等を確認し、必要な見直しを行う」「研修等の効果について、研修等の内容の遵守状況の検証や職員等に対するフォローアップ等により確認し、知識の定着を図るととも研修の改善の余地を検討する」としている。
- ② 対象者はリスク管理部署および内部監査担当部署の職員となる。
- ③ 「習熟度確認テスト」は、13問中、11問以上正解するまで、繰り返し実施し、11問以上正解したことをもって合格とする。正解数が10問以下の場合、再度習熟度確認テストを実施しなければならない。なお、実施方法についての規定はない。
- ④ テストの実施期限は令和6年3月末。

### 4. さいごに

態勢整備の状況については、内外の説明ができる体制の構築が求められていることから、職員の受講状況を把握のうえ、行政検査や体制整備モニタリング判定に際し、説明できることが必要となる。本会も引き続き、JAでの取組みを支援してまいりたい。

(中央会 経営対策部)

# 組織農政通信

## 「あおもり農業男子」の取組み

今回は、青森県農協青年部協議会が主催する「あおもり農業男子」の取組みについて紹介する。

### 1. 取組みの経緯

青森県農協青年部協議会では、令和3年度より「あおもり農業男子」の企画をスタートさせた。一般消費者に対する県内農業の理解促進や新規就農、若手農家に青年部活動に興味をもってもらうことを目的に実施している。

内容として、Instagram や Facebook などのSNSを活用し、生き生きと働く青年部の姿を情報発信している。

令和4年度からは「あおもり農業男子カード」を作成し、県内のJAや直売所で配布しており、令和4年度は県産米PRを目的に水稻農家に特化して実施したが、令和5年度は多くの農業男子にエントリーしてもらうため、作付品目を限定せずを実施し、県内8JA8名が決定している。これらの取組みは県内外のメディアに多く取上げてもらっていることから、今年度も引き続き発信力を高め、本県農業の魅力や農畜産物をPRしていく。

### 2. 今年度のキャンペーン概要

9月1日から11月30日まで、青森県内のJA本店・支店および直売所（一部JAを除く）にて「あおもり農業男子」8人のカードを配布している。8枚のカードを全て集めると、裏面にQRコードとあいことばが示される。QRコード内の応募フォームに、あいことばと必要事項を記入のうえ、応募すると抽選で16名に県産農産物がプレゼントされる。

なお、農産物の発送は12月以降を予定している。

#### ●各農業男子のカードの配布場所

	名前	設置場所
No.1	浅利 蓮	JAつがるにしきた本店
No.2	三橋 了太	JAごしょつがる本店、JAごしょつがる「まるっと新鮮館」
No.3	成田 啓輔	JAつがる弘前「アグリマーケット四季彩館」
No.4	田沢 知之	JA相馬村本所、JA相馬村湯口支所、JA相馬村湯口給油所、JA相馬村「特産物直売センター林檎の森」
No.5	佐々木 悠	JA津軽みらい板柳支店、JA津軽みらい「産直センターひらか」
No.6	母良田 茂樹	JA十和田おいらせ本店、JA十和田おいらせ「ファーマーズ・マーケットかだあ〜れ」
No.7	高松 元気	JAゆうき青森本所、JAゆうき青森天間林支店、JAゆうき青森とうほく営農センター「活彩館」
No.8	浦田 幸紀	JAおいらせ本店、JAおいらせ六戸支店、JAおいらせ三沢給油所

#### ●各SNSやホームページ情報（QRコード）

ホームページ	Instagram	Facebook
		

(中央会 農業対策部)



[応募期間]

2023.9.1 ▶ 11.30

農業男子カードを集めよう!  
青森県産農産物が当たる!

抽選  
16名様

抽選発表/ご当選の方へのみメールにてご案内いたします(2023年12月頃抽選)

詳しくは  
こちら

農業男子  
紹介はこちら

青森の農業を支える  
若手農業男子を  
紹介しております

## SGグループと共催 農産物即売会開き活況

J A 八戸グループは10月21日、SGグループ（東北医療福祉事業協同組合）と共催し、八戸市のSGプラザでJ A 八戸グループ農産物即売会を行った。

農産物即売会は地域貢献活動の一環で、地域住民がJ Aを知る機会とし、J A 八戸管内産の農産物のPR・販売促進が目的。

職員が旬のリンゴや西洋梨「ゼネラル・レクラーク」などの果実、新米「まっしぐら」、「つがるロマン」、野菜「ナガイモ」や「ネギ」などを販売したほか、地元サッカーチーム「ヴァンラーレ八戸」の選手2人を招き、サイン会、写真撮影会を行った。

さらに、各部趣向を凝らし、J Aバンクイメージキャラクター「よりぞう」や「笑味ちゃん」の出演、農作業事故VR体験、女性部や青壮年部による屋台販売などで来場者を喜ばせた。

また、SGグループでは推定野菜摂取量をチェックすることができる「ベジチェック」を行い、来場者は普段の食生活の改善点について学んだ。

来場者は「新鮮な野菜を購入することができ良かった。各部のブースでも楽しめるイベントが多く楽しかった」と笑顔で話した。



即売会の様子



女性部による屋台販売

## J A 八戸マッチスポンサーで地元サッカーチームを応援！

J A 八戸は地元サッカーチーム「ヴァンラーレ八戸」を応援するため、スポンサーを務めている。10月29日、八戸市のプライフーズスタジアムで2023明治安田生命J 3リーグ第33節「ヴァンラーレ八戸」VS「カマタマーレ讃岐」の試合ではマッチスポンサーを務めた。「ヴァンラーレ八戸」を応援し、地域活性化を図るとともに、J Aと管内の農産物を身近に感じてもらう目的で同イベントを開催し、今年度で7回目の開催となる。今年はサポーターの皆さんへ管内の農産物を



知ってもらうために、「まっしぐら」やリンゴ「早生ふじ」、ネギを使用しJ A 八戸ブースを彩った。

J Aの水越善一組合長からヴァンラーレ八戸の下平賢吾代表取締役社長にまっしぐら100kgを贈呈した。また、試合前のキックインセレモニーも行い、来場者を賑わせた。

大会のハーフタイムには、ヴァンラーレ八戸グッズ購入者を対象に管内の特産品があたる抽選会を行い、管内のナガイモや新米「まっしぐら」などを当選者へ送り、会場を盛り上げた。J A 八戸は、今後も地域に密着した活動を行っていく。



米の贈呈式



# 輝き

J A 青森中央会  
農業対策部 農業支援課  
たむら けいたろう  
田村 恵太郎 さん

●プロフィール  
2022年4月から勤務 板柳町出身 23歳

### 働くきっかけは？

実家がりんご農家を営んでおり、農業に係る諸問題を身近に感じていました。そのため、同様の問題を抱える農家組合員の減少に努め、青森県農業の発展に貢献したいと考え志望しました。

### 業務内容を教えてください。

新規就農者（新規参入、親元就農）確保対策を主に担当しております。加えて、今年度から若手営農指導員の課題や意見を吸い上げ、解決策を考案する事業にも取り組んでいます。

### 働いた感想は？

現場に足を運び、直接農協の方から状況や意見を聞くことが重要だと感じました。文面上だけでは見えてこない実情を把握することができ、対策もより現場の状況に合わせたものを担当者と共に議論していけるのではないかと思います。

### 仕事をする上で、日頃心がけていることは？

常に情報収集を行い、自身の業務に役立てることを意識しています。自身の業務内容に関連する情報に加え、直接関連のない情報についても把握することで、新たな視点からのアイデアが生まれることがあります。

### 特技・趣味は？

甘いもの（特に生菓子）が好きで、ショッピングモールで時々開催している全国から有名店が出店するイベントには頻繁に行きます！また、食べ物で変わった味の新商品があると、失敗すると分かっているが好奇心に負けて買ってしまいます。

### あなたが自慢できることは？

高校時代からハンマー投げをしており、大学時代には東北2位に入賞しました。（出場者も少なかったですが...）その習慣で今も週2日ウエイトトレーニングをしており、いつでも試合に出れるよう体作りに励んでいます。

### 将来の夢は？

実家での農作業から培っている農業者の視点と、日々の業務で培っている農協職員の視点といった双方の視点から物事を捉え、現場に必要とされる支援ができる職員になりたいです。

## 体動かし交流深める



J A 年金受給者  
グラウンドゴルフ大会

J A 津軽みらいでは、組合員や地域住民の健康管理・増進に対する支援活動を実施しており、この取組みは持続可能な開発目標（SDGS）の、目標3「すべての人に健康と福祉を」、11「住み続けられるまちづくりを」につながる。

J A では2023年1月、組合員や地域住民に食生活などに関心を持ってもらうため、「食と笑いがもたらす健康講座」を開いた。管理栄養士の三浦琢志さんが講師を務め、バランスの良い食事をしっかり取るための健康的な食事方法について講演した。また、各地区で活動している年金受給者が体を動かしながら交流することを目的とした「J A 年金受給者グラウンドゴルフ大会」や、インフルエンザ予防接種の一部助成などにも取り組んでいる。

同J A では今後も、健康管理・増進に対する支援活動を継続して行い、誰もが健康で安心して過ごせる地域を目指す。



## 催事カレンダー

開催日時	J A 名	イベント名	開催場所	問合せ先		備考
				部署	電話番号	
11月11日（土） ～11月12日（日） 両日10：00～17：00	J A 全農あおもり	2023青森人の祭典	上野恩賜公園 大噴水前広場	広報宣伝総合課	017-729-8637	



「スチューベン」の収穫作業を行う松江さん

就農して5年目となる松江大輔さん(42)は、鶴田町胡桃館地区にある80坪の園地で、妻と共にブドウ「スチューベン」と「シャインマスカット」を栽培している。

就農前、リンゴの運送業をしていた松江さんは、自ら農業を営むことへの興味が段々と膨らみ、2019年に就農を決意。同町が生産量日本一のスチューベンの町でもあり「しっかり作れば高い単価で売れる」と収益性の高いブドウへの魅力に引き込まれ、スチューベン畑を購入。

農業のやりがいは、努力した分結果になって現れること。試行錯誤した末に良いものが収穫できた時はうれしいと話す。

勉強熱心な松江さんは農業経営の知識習得や農業者同士の意見を参考にするため、本年度から鶴翔ぶどう部会へ入会。

新規就農には周りの協力が必要と話す松江さん。収入が安定していない時期に、高額な農機具を買い苦労した経験もあることから、就農間もない農業者がいれば、農機具の貸し出しや相談などは積極的に行いたいと話す。

松江さんは「農業の大きな問題である農家の高齢化と担い手不足、耕作放棄地の増加という課題を解決するためにも、今後は農地の集積・集約化を行い作付面積の拡大を図っていきたい」と目標を語る。

## 後編 記集

11月になり吹く風が寒くなり、冬の匂いがちやほや!

今回の写真は「沈黙の艦隊」の漫画本です。今年9月に実写映画化もされた1988年から8年間も週刊連載された日本の原子力潜水艦が戦う「かわぐちかいじ」が原作の漫画です。

写真は普通の単行本1~4巻、A4版の増刊「大望総集編」5(1990年3月発行)~最終32巻(1996年5月発行)です。増刊を持っている方はいる? 全巻ある方は手を挙げて! 5~32巻は、発行当時に書店で購入したものです。最後まで映画にすれば何本になるのでしょうか?

今後、ぜひ映画の続編を期待しています!

それでは皆様、「SEE YOU ON DECEMBER!」(一)



## ホームページアドレス

- J A青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>  
イベントの様子、歳時記、産直・J A情報などをご覧いただけます。
- J Aバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>  
商品・サービスのご案内のほか、マネーシミュレーションや全国のJ Aバンクへのリンク等をご覧いただけます。
- J A全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>  
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- J A共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>  
J A共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。